

木屋瀬秋の風物詩。各地の伝承盆踊りの祭典



今年も福岡県無形民俗文化財に指定されている「木屋瀬盆踊り(宿場をどり)」を中心として筑前各地の伝承盆踊りの祭典が行われますが、回を重ねるごとに色々な地区で話題になり、この宿場まつりに参加することが年間の予定に入っているようです。また、須賀公園ではフリーマーケットを、伊馬春部生家横の広場では骨董市を行います。

なお、10月19日(火)から10月24日(日)、午後7時30分から9時まで、木屋瀬宿記念館で宿場踊りの練習を行いますので、皆さんお誘い合わせの上、ご参加ください。

この宿場祭を通じて、近隣の地区との交流を図り木屋瀬をより多くの人に知っていただく、よい機会だと思っておりますので、皆さんと力を合わせ頑張りたいと思います。

第12回筑前木屋瀬宿場まつり実行委員会
企画委員長 藤 嘉量

みんなの宿場をどり

「みんなで踊ろう宿場をどり」をキャッチフレーズに、恒例の「第12回筑前木屋瀬宿場まつり」が、11月3日(文化の日)に執り行われます。



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

講座 「木屋瀬時代の散歩道」が始まりました

江戸時代の宿場町の面影を残す木屋瀬の町には、町並みの散策を楽しむ方々が訪れます。長崎街道木屋瀬宿記念館の開館にもなっている、木屋瀬の町自体の知名度も段々と上がってきた観があります。来訪者から、木屋瀬についての知識をより高めたい、理解をより深めたい、という声もしばしば聞かれます。そこで、昨年に引き続き、古い町並みが好きな方、歴史が好きなた方、木屋瀬を愛する方などのために、講座を開催することになりました。

講師陣は今年も精鋭揃いです。九州大学の丸山雅成名誉教授、梅

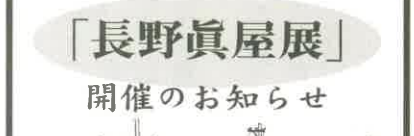


光学院大学の岡野信子名誉教授、北九州市立自然史・歴史博物館の永尾正剛参事、木屋瀬みちの郷土史料保存会の水上裕会長、同会の井上昭太郎副会長に講義をお願いしています。

講座は10月1日から始まり、11月19日までの毎週金曜日14時から、こやのせ座にて開催しています。

なお、昨年の講座の卒業生のうち、多数の方が木屋瀬宿まつりなみ案内ボランティアとして現在活躍中です。今年も受講生もまたなみボランティアに参加していただけないかと期待しています。

町並み資料館シリーズ第七弾 「長野真屋展」開催のお知らせ



平成16年10月9日(土)から11月14日(日)まで、みちの郷土史料館において、「長野真屋展」を開催します。

今回は町並み資料館シリーズの第七弾として、改盛町の長野真屋をとりあげます。明治時代の旧家の雰囲気をお楽しみください。

皆様のご来館をお待ちしております。

「木屋瀬の風景」写真コンテストのお知らせ

後期作品募集中!!

■応募内容及び応募方法
テーマ：木屋瀬の町並み、祭り、行事、神社、仏閣などの四季折々の風景。

●撮影期間—平成16年5月1日から平成16年10月31日迄。

●応募期間—平成16年11月1日から平成16年11月30日迄。

●応募先—〒807-1261 北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号 長崎街道木屋瀬宿記念館写真コンテスト係

■各賞表彰内容
前・後期の入選写真各20作品には賞金三千円と副賞として図書カード千円分を差し上げます。更に入選作品の中から金賞(一作品)銀賞(二作品)銅賞(三作品)を選出し、賞金、トロフィー、記念品を各賞受賞者に差し上げます。

■審査結果(入選作品)発表
後期入選作品の発表は、平成16年12月中旬。三賞の発表は17年1月初旬を予定しています。

※詳しくは、木屋瀬宿記念館までお問い合わせ下さい。

TEL(093) 619-1149

■主催 北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館、同運営協議会

■協賛(社)北九州市観光協会、(財)北九州コンベンションビューロー、ニコン(株)、筑豊電気鉄道(株)、凸版印刷(株)

こやのせ 宿場町木屋瀬。心に郷土が染みってくる。歴史とふれあう記念館。



「歌のうちに」

【柴田豊廣遺稿集】より

東海道中膝栗毛の弥次さん喜太さんの話もお伊勢詣りの道中話でありました。

明日はどんな風が吹くかしらと自然を友として流れゆく、旅芸人や旅商人も行く先き先きの神や仏に教えられ導かれ、旅に疲れた心を安らげられ救われています。

こうして神仏信仰を懸念につづける人々は自分の心が神になるまで神に教わり、自分の心が仏になるまで仏に教わる事により、常に晴れ晴れしい喜びがあったと思います。

鞍手町長谷の里の長谷寺の十一面観世音さまは、実に美しい仏さまで国宝であります。

子供の頃の私は、祖母や近所のおばあさんと歩きながら山坂越えてお詣りしました。畑の観音さまや近辺のお詣り所にも、母と歩きながらよくお詣りしました。こうした体験の積み重ねで、物事に堪え物事に屈しないようになりまして。良い教えであったと思います。

私の祖母は、当時三才であった私の母を連れて三人でお伊勢詣りをしていました。

旅立ちには町内の人々や友達に、香月町の石坂まで見送っていただき、牡丹徳利と菜重とお別れし、お伊勢詣りの神仏巡拝を六ヶ月もかけて無事終り、帰りに往きと同じく皆さんに香月町石坂まで、今度は車を供いお迎えを受けています。

お伊勢詣りは歩く事が主なので、家族の中でも元氣旺盛な重要な人でなければ出来ない大立ちででありましたので、準備等も大変な事であったと聞いています。

この祖母や母に連れられて私は、小さな時から神さまや仏さまによくお詣りしました。そして何もわからないままに、神や仏はただありがたいなと思いついた。その思いが今も私の心に息吹いていて、良い教えであったと思っています。

良き時代の木屋瀬のお母さん達が、子供達に向けた、理屈をぬきにした自然の教えであり、お母さん達の平和な心が、子供の心に移り住む、楽しい教えであったと思われて懐かしうてなりません。

人々は神仏の教えを求めて聖地へ向かって信仰の旅に立ちます。それは聖地の中に神仏の教えがあり、私達の旅は神仏の教えを求めることにより発達しているからであります。

東海道中膝栗毛の弥次さん喜太さんの話もお伊勢詣りの道中話でありました。

明日はどんな風が吹くかしらと自然を友として流れゆく、旅芸人や旅商人も行く先き先きの神や仏に教えられ導かれ、旅に疲れた心を安らげられ救われています。

こうして神仏信仰を懸念につづける人々は自分の心が神になるまで神に教わり、自分の心が仏になるまで仏に教わる事により、常に晴れ晴れしい喜びがあったと思います。

広報部会長就任あいさつ

広報部会長 高崎尚康

はじめまして。

本松前広報部会長に代わり木屋瀬宿記念館の広報誌「寄せ太鼓」を第10号から担当を引き継ぐことになりました高崎です。

この広報誌が、「より見やすく、読みやすく、分かりやすく」を目指して頑張ります。また、「寄せ太鼓」を通じて、木屋瀬を皆様と共に考え、より良いまちになればと思っています。今後ともよろしくお願いします。

平成16年10月吉日

池田勉 長崎街道写真展 盛況のうちに終了しました

平成16年8月21日(土)から9月26日(日)まで、みちの郷土史料館において、「池田勉 長崎街道写真展」が開催されました。

長崎県在住の池田勉さんが十年余りの歳月をかけて撮影された長崎街道の写真、全64点を展示しました。ご自身のイメージに沿うまで同じカットの写真を何度も何度も撮り直されたそうで、どの作品からも池田さんの写真にける情熱が伝わってくるようでした。

会期前半は夏休みということもあり、家族連れのお客で賑わい、おかげさまで盛況のうちに終了いたしました。ご来館ありがとうございました。

※史料館にて池田勉写真集を販売しています

広報部会長	高崎 尚康	野口 靖彦
広報部会	千々和 裕	矢野 圭樹
	伊藤 征剛	柴田由美子
	北崎 隆喜	藤 政文
	小河内 勲子	

木屋瀬宿記念館の利用状況

平成13年1月1日に開館して以来、多くの人に利用され愛されています。

平成15年9月～平成16年8月までの利用状況は次のとおりです。(単位:人)

平成15年	みちの郷土史料館		こやのせ座等		平成16年	みちの郷土史料館		こやのせ座等	
	9月	628	572	1月		551	399	5月	1,166
10月	1,099	975	2月	830	316	6月	555	1,013	
11月	1,145	863	3月	1,075	1,234	7月	1,631	857	
12月	341	1,107	4月	742	1,330	8月	2,077	1,404	
		合計		11,840		11,496			

●今後も、楽しく面白い企画を予定しております。皆様お誘い合わせの上ご来館下さい。

こやのせ たなばたまつり

8月7日(土)

昨年は雨降りでしたが、今年は好天に恵まれました。17:00多数の子供さんや家族連れで参加の皆さんが、沢山の短冊にそれぞれ願い事等を書き、用意された飾りものと一緒に七夕の飾り付けを行いました。

続いて、ピアノと語りのコンサート、星のビデオ上映、更に中庭で星座観測を行い、織り姫・彦星を見つけて20:00すぎに終わりました。

ボランティアの皆さんも昼過ぎから、笹を何本も切ってきたり、カキ氷の接待等をして御苦勞様でした。

こやのせ座運営部会委員 長野誠一



人名も十人程は拾われる。

《代官所跡》 跡見 史短見

みちの郷土史料保存会 会長 水上 裕

～その三～

長崎街道の新町四丁目から東の方、岡森用水路に向って「代官小路」と地元でいう細道がある。その中程左手に、今、下田家が建っている辺りを含めて、江戸時代に代官所の敷地があった。

現在高サ四十七センチ程の石垣が当時を偲ばせるだけであるが、明治六年の記録では、それも五尺(約一・五米)あったというので、恐らく道路普請の度に埋ったと考えられる。

更に石垣の長サは、南北十八間(約三十三米)、東西二十二間(約四十米)四方で、代官所を中にして、後で触れる「下代」の二軒と石垣外に一軒の三軒が囲んでいた。恐らく現在の園田家辺りまでで長崎街道に接していたと思われる。さて「代官」であるが、藩主の

筑前木屋瀬宿 寺めぐり 第二回 長徳寺

木屋瀬は世界の貿易港であった

長崎街道木屋瀬宿記念館から少し中島橋よりの街道を直角に東へ曲がり長徳寺小路と呼ばれる参道を進むと正面が長徳寺です。夕日が沈む西を正面にして、山門・鐘楼・本堂と配置され境内はなんとも言われない癒しの宗教的空間を醸し出しています。境内に続く墓地には、須賀神社を建立した、伊藤宗伯等の伊藤一族や宿庄屋石橋家のお墓もあり木屋瀬宿一番の古刹であります。山門の横にある寺伝によると、創建当時は天台宗に属していたが、浄土宗鎮西派の祖である鎮西上人が度々寄寓され、浄土門を説かれたのが縁で浄土宗として、嘉徳元年(一一三五)二祖鎮西上人を開基とし、浄土宗の元祖法然上人の遺骨を安置していると記されています。又、慶応二年の小倉藩騒動の折には肥前藩の宿陣にもなっています。

江戸初期までは、木屋瀬は世界的な貿易港であったのです。中島橋の下近辺にあつたといわれる倉庫には世界の産物が有ったことでしょうか。しかし、彼は、寛文7年(一六六七)

そこは長崎奉行所の跡地で彼が逮捕拘留された所です。その古文書に彼の名前を見たとき、何か懐かしい人に出会ったような、又、その古文書も郷土の人に三百三十年ぶりに会い何かを語りかけるようでした。名残を惜しみながらその部屋を出ようとしたら、何か背中が暖かいものを感じ思わず振り返り念仏を称えていました。



歴大なる古文書の丁度伊藤小左衛門の記述の場所が私に見てくださいと展示されてきました。何か不可思議な力が働き私と対面させたのかも知れません。口伝によると小左衛門の最後は堂々としたもので、黄金の煙草入れを木屋瀬の人に託しました。念仏者として、阿弥陀仏の本願を深く信じ浄土に生まれる事を疑わなかったからでしょう。本堂に座ると小左衛門の念仏のこだまが聞こえる感じがします。

長崎街道木屋瀬宿記念館から少し中島橋よりの街道を直角に東へ曲がり長徳寺小路と呼ばれる参道を進むと正面が長徳寺です。夕日が沈む西を正面にして、山門・鐘楼・本堂と配置され境内はなんとも言われない癒しの宗教的空間を醸し出しています。境内に続く墓地には、須賀神社を建立した、伊藤宗伯等の伊藤一族や宿庄屋石橋家のお墓もあり木屋瀬宿一番の古刹であります。山門の横にある寺伝によると、創建当時は天台宗に属していたが、浄土宗鎮西派の祖である鎮西上人が度々寄寓され、浄土門を説かれたのが縁で浄土宗として、嘉徳元年(一一三五)二祖鎮西上人を開基とし、浄土宗の元祖法然上人の遺骨を安置していると記されています。又、慶応二年の小倉藩騒動の折には肥前藩の宿陣にもなっています。

寛文7年(一六六七)長崎で武器密輸の罪で磔の刑に処せられます。当時外国貿易については、福岡藩は黙認の事項で彼は藩の財政を一手に引き受け黒田家を何度も助けた大恩人であったのですが、当時の黒田藩主は幕府に気兼ねして突然寝込みを襲い一族郎党79人を逮捕し処罰しました。

私は10年前、その顛末が書かれた当時の古文書を偶然の機会に見ることができました。その場所は長崎の県立図書館で、昔

なつやすみ 夏休みイベント

こやのせ座運営部会では、夏休み恒例の子供向け無料イベントを8月20・21・22日の3日間行います。

内容は20・21日には「日本昔ばなし」のビデオ上映会にて古き良き日本の伝承物語を楽しみ、22日には「絵本のような音楽会」を「ハーモニック・ラズベリー」の出演で行いましたが、メンバー9名が織り成すコーラス・ソロ・影絵によるハイグレードなコンサートに子供達ほか保護者など、「こやのせ座」を埋める40名の観客が音楽の魅力に酔いしれる一時を過ごしました。

こやのせ座運営部会長 柴田泰助

今年も奉納も盛大に 筑前木屋瀬祇園宿場祭報告

筑前木屋瀬祇園宿場祭とは「水無月の夏越の祓いする人は千歳の命延ぶと云うなり」と歌われますように、古より須賀神社の氏子が茅の輪をくぐり息を吹きかけた人形を納め、過津日(まがつび)の邪神を祓い息災を祈願してきた伝統行事「夏越大祓祭」と、祇園社の創建以来五百六十年余の歴史と伝



これも一重に、準備段階から後片付けに至る迄ご奉仕戴きました氏子総代会の皆様方を始め、豪壮且厳肅に統制のとれた山笠運営を務められました一番山笠(中央町)二番山笠(東中町)の両当番町総取締役以下、山笠関係者の皆様、並びに山笠を陰で支えられた当番町助方(ご寮んさん方)の献身的なご協力の賜物と深く感謝しお礼を申し上げます。尚、年々勢いづき盛んになってきた観の筑前木屋瀬祇園宿場祭ですが、木屋瀬の歴史と伝統を解し踏まえた更なる発展を心より祈念いたします。

筑前木屋瀬祇園宿場祭実行委員会 副実行委員長 柴田泰助

盆踊り



今年度の盆踊りは天候にも恵まれ盛大に行われました。13日午後7時、新町五町、本町六町の踊り子がこやのせ座に集まり、盆踊りに勢いをつけるかのように総踊りが踊られ、その後記念館よりかき氷をご馳走になり一服した後、各々ちりじりに軒目の初盆家へと屋台を引きながら向かった。年々木屋瀬町内でも高齢化が進み、本町六町に限っては毎年15〜20軒の初盆家がありますが、今年度は例年より少く時間的にもスムーズに踊る事が出来ました。

木屋瀬の盆踊りは他地区のように舞台を作り、提灯を明々として踊るものとは違い、地舞台(三味線、太鼓、唄)と踊り子が一体となって家の前で亡き人を供養する踊りであるため地味ではあるが大変アジのあるものです。そんな盆踊りではありませんが、踊る喜びと、実はもう一つ楽しみがあるため、毎年多くの人達が参加されます。そのもう一つの楽しみとは、踊りを踊った後その家の方からの心あたたまる接待を受け



そしてその日最後まで一生懸命踊りきった子供達には、ご褒美に盆灯籠会からお菓子の詰め合わせを。三日間踊れば家はお菓子とジュースで一杯になります。「こんな楽しい盆踊りは木屋瀬しかない。」こうして踊る側、踊ってもらう側が一体となってアジな盆踊りになっています。この古き風情のある盆踊りがさらに盛んになることを願っています。

本町六町盆灯籠会 矢野圭樹